

新潟県における普及事業について

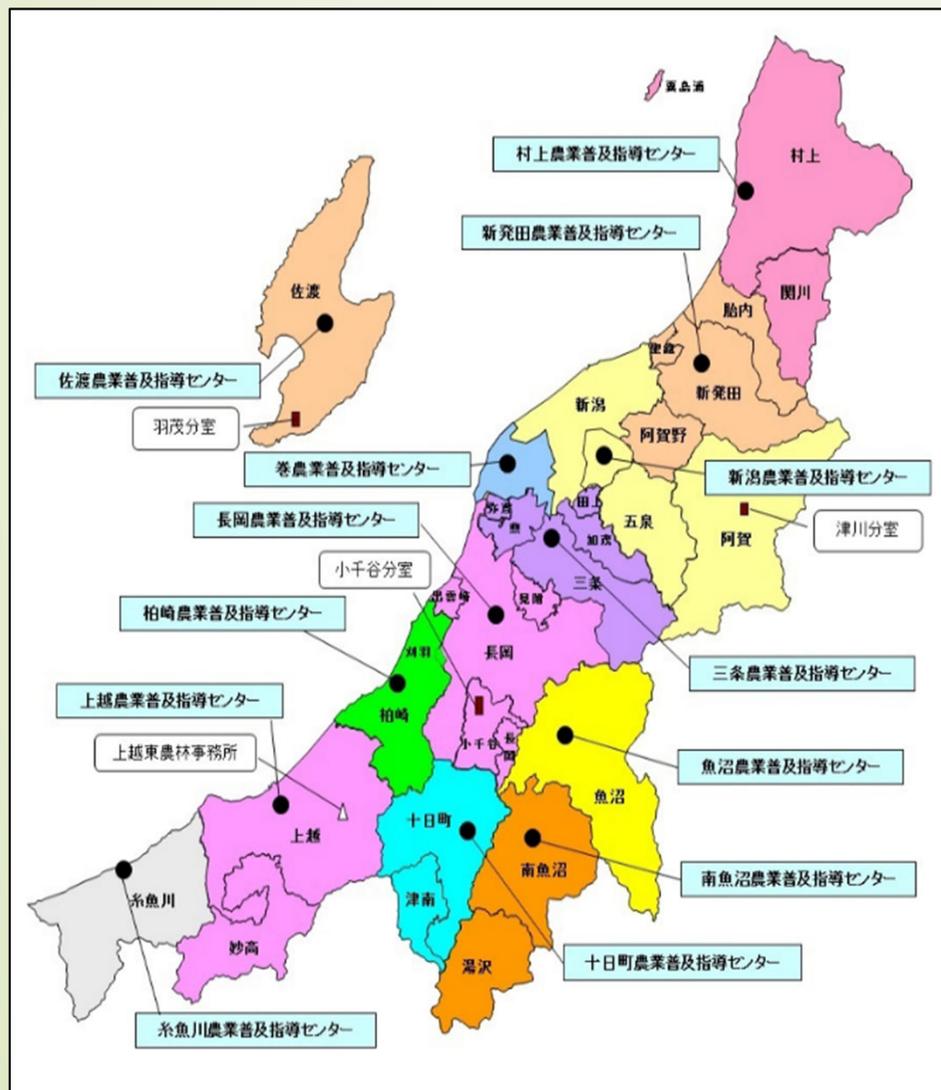


新潟県農林水産部経営普及課

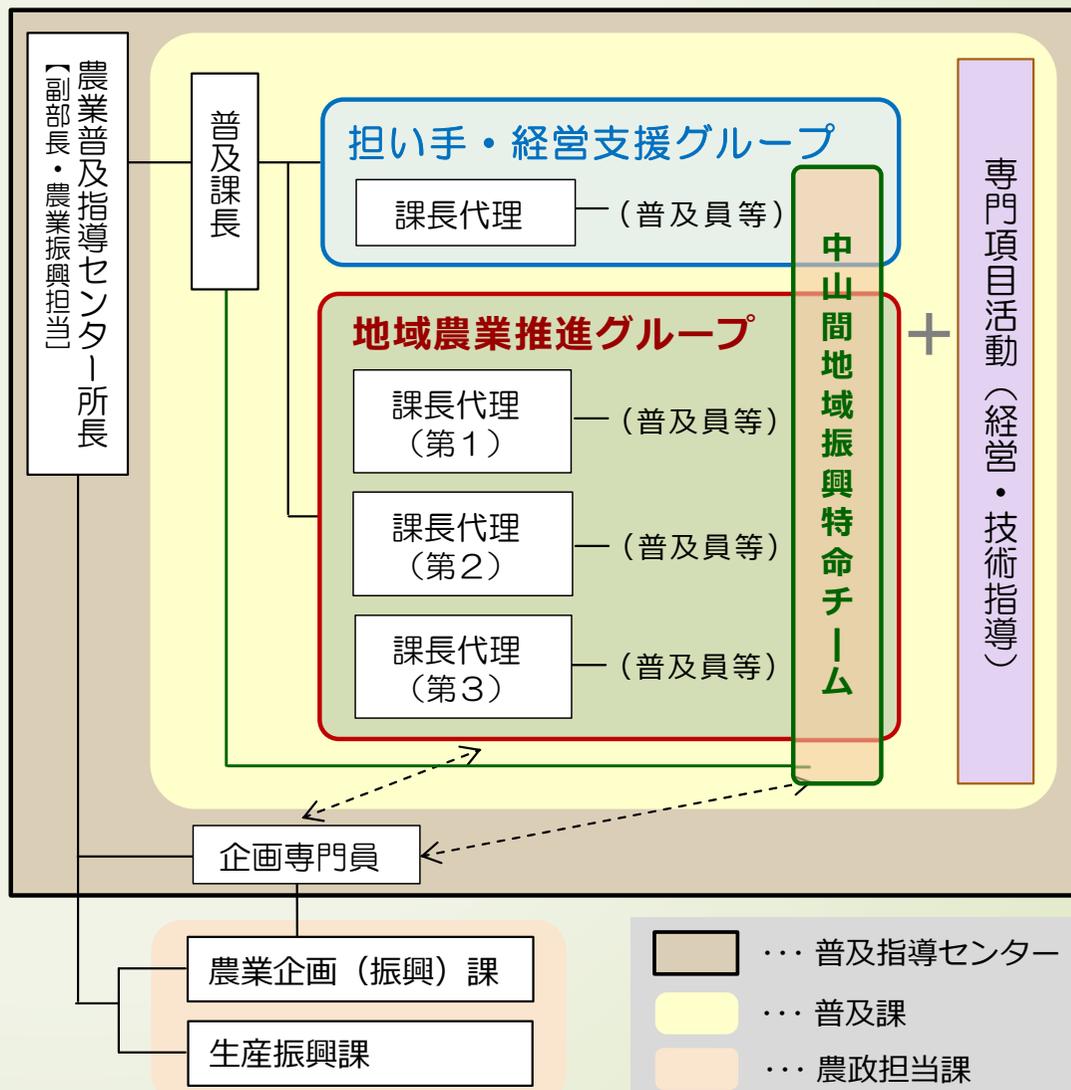
1. 新潟県における普及組織の概要

- 付加価値の高い持続可能な地域農業の実現に向けて、令和6年度から地域農業を俯瞰した新体制へ移行
- 技術をベースとして、「担い手」と「地域」に着目した効果的かつ効率的な普及活動を展開

(1) 普及指導センター設置状況について



(2) 普及指導センターの活動体制 (R6年度)



(2) 普及職員数、階層別の普及職員割合について

○ 普及職員数は、平成20年頃から「横ばい～微減」

○ 年齢構成は、中間層（主任・主査クラス）は少ないものの、「2極化から若返り」へ

→ 「技師・普及指導員の割合」は、約5年間で倍増（H30：12.4% → R6：24.3%）

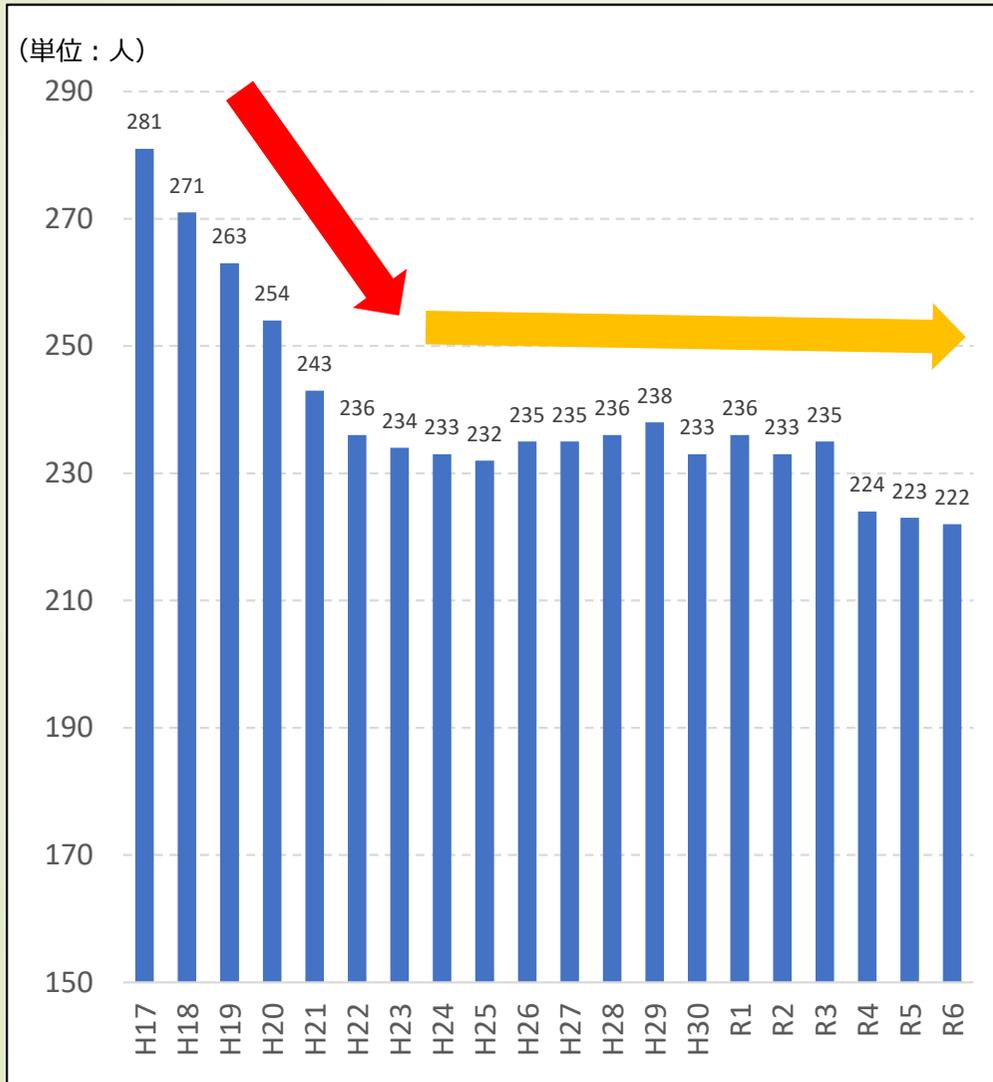


図1 普及職員（農業革新支援担当を含む）の推移

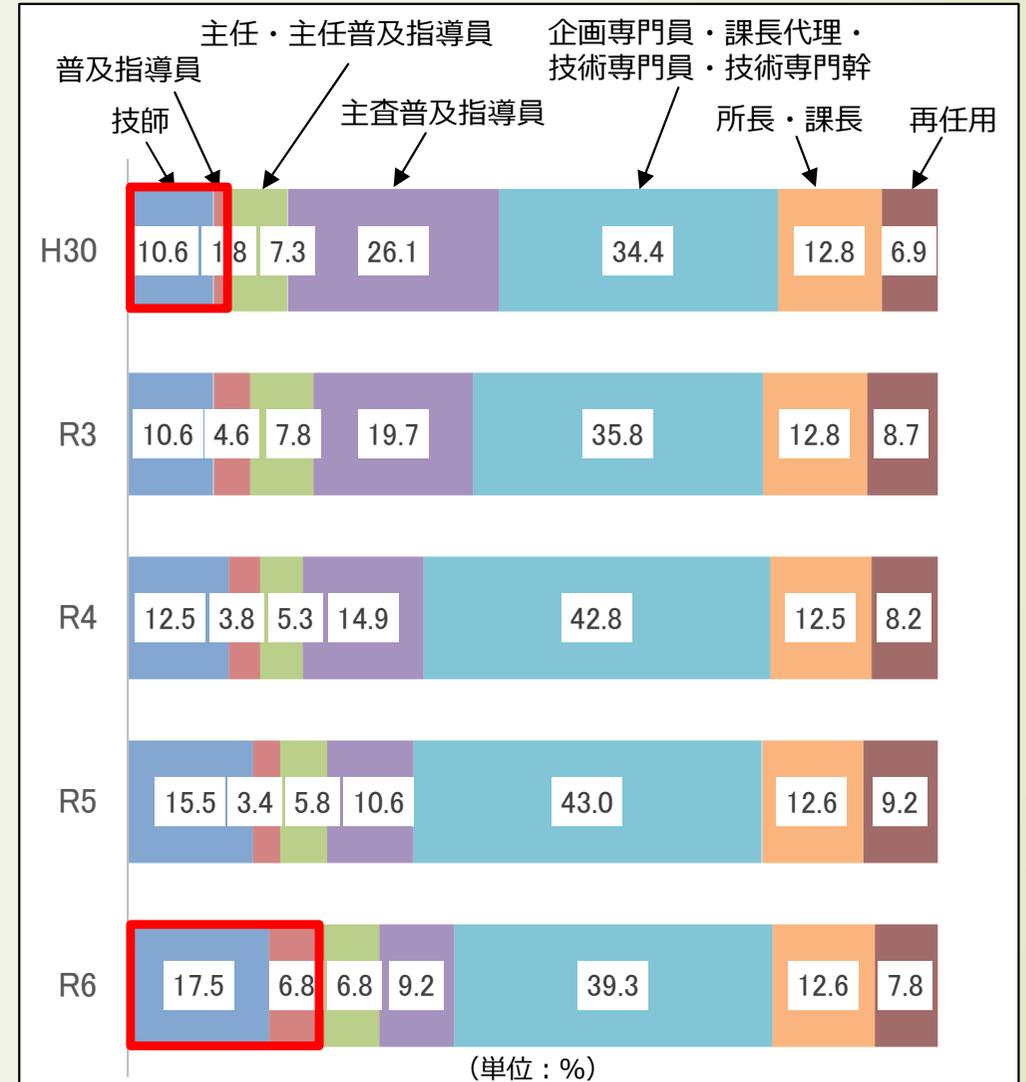


図2 普及職員の職名別構成

2. 普及指導員の資質向上の取組について

- 農業革新支援担当（16名）を県下**3カ所**に配置
- **普及職員の早期育成**に向けた研修体系
- 「**外部評価**」と「**普及活動成果発表会**」等により活動の検証・評価と成果の共有

(1) 農業革新支援専門員の担当分野別配置状況（令和6年度当初時点）

		専門項目											計	
		普及指導活動	経営	担い手※	6次産業化※	農福連携※	地域づくり※	作物	園芸			畜産		環境保全
									野菜	果樹	花き			
本庁	経営普及課 (●)	2	1	(1)	(1)	(1)	(1)					1	1	5
	農産園芸課 (●)							1						1
地域機関	農業総合研究所 (●)		1					2		1	1	1		6
	農業総合研究所 (●) (園芸研究センター)							2		1	1			4
計		2	2	0	0	0	0	2	3	2	2	2	1	16

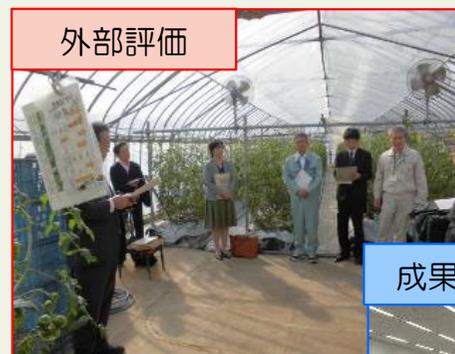


※ 担い手、6次産業化、農福連携、地域づくりは、普及指導活動担当（2名）がそれぞれ兼務

(2) 採用1～3年次における主な研修内容

	1年目	2年目	3年目	
構造対策	新任総合Ⅰ・Ⅱ (普及活動手法)		普及活動高度化 (資格試験対策)	普及指導員資格試験
	基礎から学ぶ地域づくり講座			
生産対策	OJT研修		土壌診断能力	
	営農体験	経営基礎Ⅰ・Ⅱ		
	新任専門技術Ⅰ・Ⅱ		高度最新技術	

(3) 外部評価、普及活動成果発表会



評価テーマとなっている普及課題の取組状況を評価委員に説明している様子



各センターの取組を有機者等の審査委から評価いただいている様子

3. 普及指導活動の重点化について

- 毎年度、施策の推進方向と地域課題等を踏まえ、全県共通の**重点課題**を設定
- **令和6年度**は、以下の**3課題**を重点課題として普及指導活動を展開

① 園芸販売額1億円産地づくり



『園芸参入塾』の様子

ベテラン農家と連携した新規導入者等の技術習得支援

② 中山間地域における持続可能な農業・農村の仕組みづくり



『ビレッジプラン2030』の取組の様子

地域住民が主体となった農業・農村の維持発展の仕組みづくりに向けた合意形成支援

③ 担い手を中心とした安定的な農業構造の確立



『法人等経営力向上指導活動』の様子

専門家と連携した担い手への経営改善支援

重点課題に関する
主な活動を紹介します。



4. 今後の普及指導活動について

～ 付加価値の高い持続可能な農業の実現に向けて ～

○ 力強い農業構造の確立と中山間地域の発展



○ 収益性の高い魅力ある農業経営の実践



○ 本県農業を担う担い手の確保・育成

